とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	中目黒どろんこ保育園
施設所在地	目黒区中目黒5-7-4
法人名	社会福祉法人どろんこ会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

土の研究

＜テーマの設定理由＞

畑仕事(野菜の栽培・田植え(田植えツアーや自園での田植え））やどろんこあそび、築山の土との触れ合う中で、子ども自身が土の感触の違いに気づいたことから、土について子どもと一緒に探求していきたいと強く思った。

２．活動スケジュール

2025年
7月：テーマ決定（子どもとテーマ「土の研究」について自由に思うことを話し合う。）
7月～10月：散歩先での土との触れ合いを通して、いろいろな土があることを知る。
11月：築山(身近な土）の土の入れ替え　土を運搬する際に土の色、感触、重さ、匂いを触って見て、嗅いで、もって見て触れ合い、感触を味わいながら土の特性を知る。
12月：許可を得ながら散歩先の公園やグラウンド、畑や園庭など身近な土の採取。荒木田土や鹿沼土等特色にある土を購入し、色、重さ、匂い、感触、水分の吸収等それぞれの土の特性を調べる。
2月：顕微鏡を用いてそれぞれの土の粒子を観察。重さ比べ。
3月：泥団子に適した土はどれか、子ども自身がこれまでの観察してきたことから導き出して泥団子を作る。また、ブッロッコリースプラウトの種を撒いて、生育具合を観察する。　子どもと共にこれまでの研究成果について振り返る。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

田植えの土(荒木田土)や築山の土(真砂土、黒土、鹿沼土など）また、畑の土(培養土、腐葉土）、焼き物の土(桜井粘土など）他、園庭の土、公園の砂場の土、公園の木の根元の土
観察用の顕微鏡

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

田植えの土（荒木田土）や築山の土（真砂土・黒土・鹿沼土）、畑の土（培養土・腐葉土）、焼き物用の土など、さまざまな種類の土を集め、見た目・匂い・感触の違いを比較した。また、水を加えた際の変化や顕微鏡での観察、紙に擦った時の色の違いなどを調べながら、それぞれの土の特徴を知った。
さらに、「どの土が泥団子づくりに向いているか」「どの土が植物をよく育てるか」を予想し、実際に泥団子づくりやブロッコリースプラウトの栽培を行った。予想と異なる結果もあり、試したり比べたりする中で新たな発見を楽しむ姿が見られた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
荒木田土、築山の真砂土・黒土・鹿沼土、畑の培養土や腐葉土、焼き物用の桜井粘土、園庭や公園の砂場・木の根元の土など、さまざまな土を集め、まずは見たり、匂いを嗅いだり、触ったりしながら違いを探った。「この土、カブトムシの匂いがする」「こっちは園庭の匂い」「さらさらしてる」「どろどろしてるね」など、自分が感じたことを言葉にしながら友だち同士で発見を共有する姿が見られた。保育者が「なんで匂いが違うんだろうね」と問いかけると、「葉っぱが入ってるからじゃない」「幼虫がいたのかな」と、自分なりに考えを伝え合う姿もあった。その後、それぞれの土に水を入れて変化を観察すると、「水が茶色になった」「浮いてる」「全然変わらない」と驚きながら比較していた。また、顕微鏡で観察すると、「キラキラしてる」「石がいっぱいある」と、肉眼では気づかなかった細かな違いにも興味を示していた。さらに、土を紙に擦って色を調べる活動では、「茶色になった」「この土は色つかない」と違いを見つけ、泥団子づくりでは「この土が固まりそう」「さらさらだから無理かも」と、それまでの経験をもとに予想を立てながら試す姿が見られた。
また、“どの土が一番植物を育てるのか”をテーマに、さまざまな土へブロッコリースプラウトの種を植えた。子どもたちは「畑の土が一番育つと思う」と予想していたが、実際には鹿沼土が最もよく育つ結果となった。活動を通して、子どもたちは土の違いを五感で感じながら、自分の気づきを言葉にしたり、友だちと考えを共有したりしながら、主体的に探究を深めていった。

見て触って嗅いで比べる

擦る

顕微鏡で見る

どろだんごにする

畑6日目

かぬまつち6日目

畑27日目

かぬまつち27日目

みんなで成果を
確認する

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

畑仕事や田植え、どろんこ遊びなど、日常の自然体験の中で子どもたち自身が土の違いに気づいたことをきっかけに活動を展開していったことで、“子どもの気づき”から始まる探究の大切さを改めて感じた。活動を通して、子どもたちは土を五感で感じながら、「なんで違うの」「こっちはどうなるかな」と自分なりに考え、友だちと発見を共有しながら興味を深めていた。特に、保育者が答えを伝えるのではなく、一緒に考えたり試したりすることで、子ども同士の対話や主体的な姿がより引き出されていたように感じる。また、予想と異なる結果に対しても驚きや面白さを感じ、「やってみないと分からない」という経験につながっていた。自然物を使った探究活動は、正解を知ることだけではなく、“気づく・比べる・試す・考える”過程そのものが大切であり、子どもの探究心や思考力を育むことにつながると感じた。